

『紫式部日記』 道長家 栄華の記録

- ① 女郎花さかりの色を見るからに 露のわきける身こそしらるれ 寛弘5年(1008)7月
白露はわきても置かじ女郎花 心からにや色の染むらむ 道長とのやりとり
- ② 菊の露わかゆばかりに袖ふれて 花のあるじに千代はゆづらむ 寛弘5年9月9日
倫子(道長の妻)とのやりとり
- ③ 紀の国のしららの浜にひろふてふ この石こそはいはほともなれ 寛弘5年8月上~中旬
- ④ いかにかがかぞへやるべき八千歳 のあまり久しき君が御代をば
あしたづのよはひしあらば君が代の 千歳のかずもかぞへとりてむ 寛弘5年11月1日
- ⑤ 雲間なくながむる空もかきくらし いかにしのぶる時雨なるらむ 少少将の君
ことわりの時雨の空は雲間あれど ながむる袖ぞかわくまもなぎ 寛弘5年10月
- ⑥ 浮き寝せし水の上のみ恋しくて 鴨の上毛にさえぞおとらぬ 大納言の君
うちはらふ友なきころの寝ざめには つがひし鴛鴦(をし)ぞ夜半に恋しぎ
- ⑦ 年くれてわがせふけゆく風の音に 心のうちのすさまじきかな 寛弘5年12月29日

- ⑧ すきものと名にし立てれば見る人の 折らで過ぐるはあらじとぞ思ふ(すき=好き、酢っぱい)
人にまだ折られぬものを誰かこの すきものぞとは口ならしけむ 道長とのやり取り
- ⑨ 夜もすから水鶏(くいな)よりけになくなくぞ まきの戸口にたたきわびつる
ただならじとばかりたたく水鶏ゆゑ あけてはいかにくやしからまし 土御門邸渡殿で寝た夜

道長 妻 倫子・鷹司殿(源雅信娘)、明子・高松殿(源高明娘)、
妾・召人 簾子(源扶義娘)、源重光娘、儼子(藤原為光4女)、穠子(藤原為光5女)
一家三立后 彰子(一条天皇)、妍子(三条天皇)、威子(後一条天皇) 嬉子(後朱雀天皇)
望月の歌「この世をば 我が……」威子が後一条天皇の皇后となったことを祝う宴の席
『小右記』(実質)の寛仁2年(1018)10月16日の条※『紫式部日記』は知らない
1028年道長亡くなる

紫式部 父 藤原為時・大学寮、文章生(ぶんしょうしょう)漢籍に詳しい
984年花山天皇の時、式部大丞(だいじょう)に。寛和の変で失職(藤原兼家の陰謀)。996年道長より越前守に。

夫 998年宣孝と婚姻、51才で亡くなる。紫式部28才 賢子を産む⇒彰子に出仕
出仕 中宮彰子1006年頃に。一条天皇『源氏物語』のファン。道長がスポンサー
1008年彰子、敦成親王を出産
白楽天(白居易)の『白氏文集』漢詩を密かに彰子に講義している
道長死亡後、彰子がスポンサー。彰子、皇太后になる。国母(こくも)87才
弟 藤原惟規(のぶのり)

左衛門(さいも)の内侍(ないし)のこと

・影口タイプ 「日本紀」の御局(おつぼね)と噂する

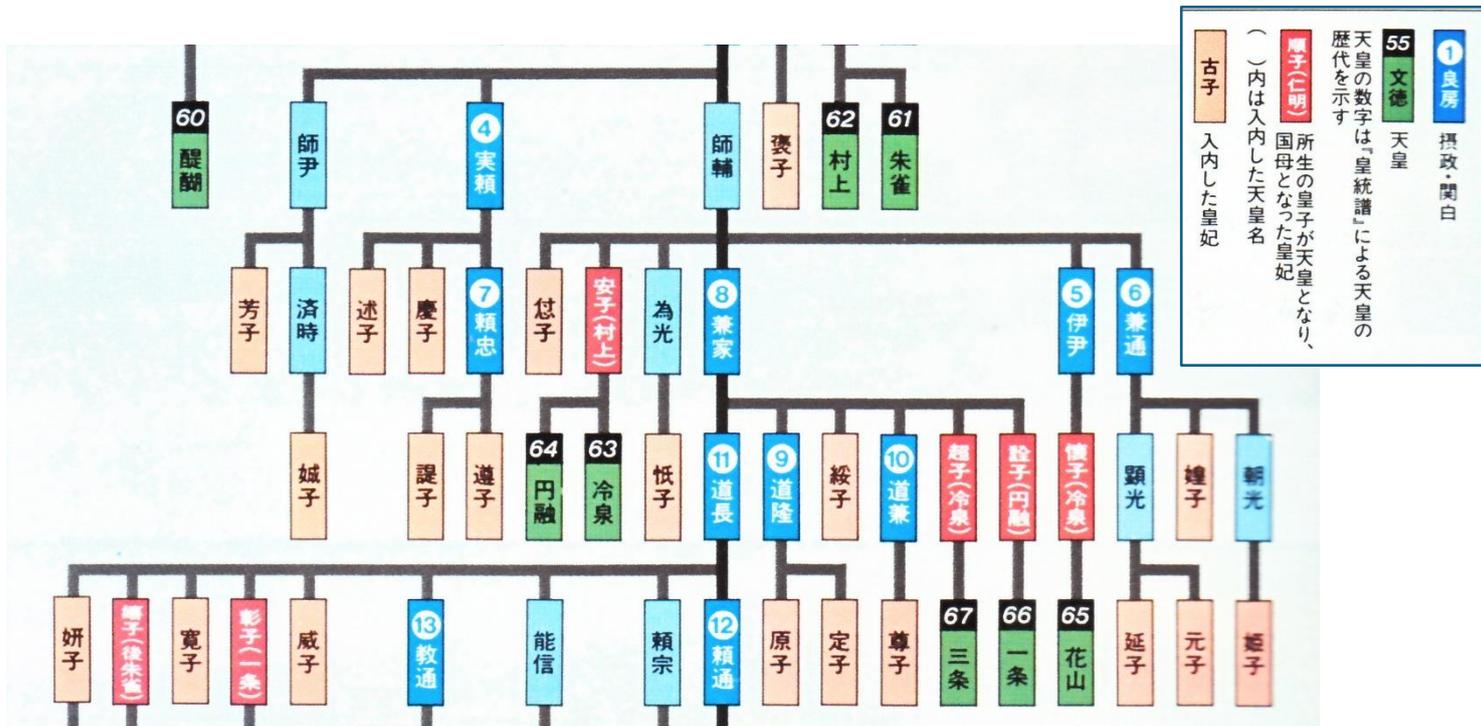
清少納言のこと

・中宮定子に出仕。漢籍に詳しい。『枕草子』作者

・真名(まな・漢字)書き散らして侍るほども、よく見れば、まだいと足りなし

漢学に詳しいことを自己アピール。風流を気取る、薄っぺらな性質な人、思いやりに欠ける
「物忌みける人の、行く末いのち長かるめるよしども見えむためしなり」

※一条天皇と定子との子、敦康親王が東宮になるかという時期、評価を貶める。



• 寛和の変 寛和元年 (986) 6月23日

寵愛していた女御の藤原柅子(藤原為光の娘)を亡くした花山天皇は、供養のために出家を考える。懐仁親王(やすひとしんのう、後の一条天皇。母は、母は藤原詮子せんし・藤原兼家娘)を皇位につけたい藤原兼家は、蔵人として仕えていた三男・道兼に、花山天皇が本当に出家する気になるように仕向けさせる。花山天皇が道兼の勧めで山科の元慶寺へ向かう。

長男の道隆と次男の道綱が清涼殿の三種の神器を凝花舎(皇太子の居所)に移し、内裏の諸門を封鎖。そして、花山天皇は元慶寺で出家。兼家、摂政に就く

• 長徳の変(ちょうとくのへん、花山院闘乱事件)長徳元年(995)4月10日

藤原道隆の死後、弟の藤原道長が詮子によって内覧、右大臣の宣旨を得た後に起きた政変。道隆の一族中関白家、隆家、内大臣・伊周(これちか)が排斥される。中宮定子が二人を匿う
 ※藤原氏の力の源泉は、積極的に天皇家と姻戚関係を結んだこと。さらに、他の氏族を徹底的に排除したことで道長は権力を独占。一族の栄華は頂点を極めた。

※五摂関家

源氏三代の後、第4代将軍 藤原頼経(北家)、鎌倉時代に一条、二条、九条、鷹司、近衛に
 室町時代 足利氏の正室に日野氏。江戸時代にも、徳川家の正室に。

明治時代 西園寺公望 昭和時代 近衛文麿首相など

- 豊臣家が五摂関家に割り込む⇒六摂関家に⇒秀次の自害事件
 源頼朝、足利義満、徳川家康は「征夷大将軍」 武家の頭領